

2026 年 9 月 6 日聖霊降臨後第 15 主日 (マタイ 18 : 15~20)

二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。(マタイによる福音書 18 章 20 節)

今日は礼拝の中で、洗礼式がおこなわれます。教会で洗礼式がおこなわれることは、実はとても大切なことです。というのわたしたちは、その方が洗礼にあずかるのを見て、自分自身の信仰と向き合うことができるからです。それがなぜ必要なのかというと、わたしたちはすぐに忘れてしまうからです。誓約の場面で志願者は、くどいように「神の助けによって」と答えます。悪の力を退けるのも、イエス様を受け入れるのも、そしてイエス様に従っていくのも、すべてが「神の助けによって」、逆に言うとなわたしたちは、自分の力では歩むことのできない存在なのです。

でもわたしたちはついつい、自分の力に頼ってしまう。そして自分を優れた者だと思い、自分の力だけを信じて神さまの存在を忘れてしまう。洗礼式とは志願された方がこれから先、神さまにすべてをお委ねすることを誓う式であるとともに、共に集う人たちが神さまにすべてを委ねる喜びを思い起こす、そのような式なのだろうと思います。

そのような中で今日与えられたみ言葉ですが、まず使徒書に耳を傾けてみたいと思います。そのパウロが書いた手紙の、最初の部分にはこうあります。「愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善から離れず、兄弟愛をもって互いに愛し、尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい」。キリスト者として生きるということの根底には、愛があります。聖書の中には、愛という言葉が多く出てきます。しかしパウロは手紙の中で、「愛に

は偽りがあってはなりません」と書きます。これはパウロの目に人々の愛が、時に「偽り」に見えたということです。

聖書の愛は、男女間だけのものではありません。とても大切にするという意味であり、その愛は見返りを求めず、一方的に与えられるものです。シャワーのように注がれるものと言ってもいいかもしれません。だとすると、偽りの愛とはどのようなものでしょうか。何かをしたらその見返りを求め、与えるより受ける方を求め、そして相手のことを大切にしていると言っておきながら実は自分の方が大事。そういうことでしょうか。

また、「尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい」という言葉にも、わたしたちは耳を傾ける必要があると思います。わたしたちは人と関わる中で、ついつい人より上に立とうとしてしまいます。それは、とても気分がいいからなのでしょう。でもそこに聖書の言う「愛」はあるのでしょうか。相手を尊敬し、相手を優れた者として考える。そのことが大切なのです。

パウロはこの箇所の中で、こうも書きました。「あなたがたを迫害する者のために祝福を祈りなさい。祝福を祈るのであって、呪ってはなりません。喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」と。

9 月に入り、いよいよ信徒の集いが近づいてきました。「神さまからのラブレターを読んでラブソングを歌おう」というサブタイトルのもと、教区のたくさんの教会から 180 名もの参加者が与えられました。多分今この説教をしている最中でも、準備のことで頭がいっぱいの方もおられることでしょう。

聖書を読み、聖歌を歌う。また絵画を味わう。その中で神さまの愛を感じ、それを分かち合う。そのことがこの信徒の集いの中で実現できれば、どれほどうれしいことだろうと思います。

後からの交流会は、ただの音楽会ではありません。この教会に連なるいくつかのグループが演奏を披露する。でもそこで競い合う、歌合戦のようなものでもないのです。愛のコラボといってもよい、共に作り上げる、そのようなものでありたいと思います。

それぞれの演奏に耳を傾け、そこから得られる神さまの愛の深さを味わっていく。例えば福音書が画一的ではなく 4 つの種類があるように、そのことによってイエス様の姿が立体的にわたしたちに伝えられるように、わたしたちも様々な形で聞こえてくる神さまの愛を感じ取ることができればと思います。

そしてこの信徒の集いの最後には、みんなで賛美をします。「神の国と神の義を」を歌いますが、きっと様々な楽器も使われることでしょう。教区のいろんな教会から来られた方々のいろんな歌声も混ざることでしょう。そしてこの歌の中で、輪唱をしようと思います。本当にいろんな音が、この礼拝堂中に響き渡るのです。

子どもたちと一緒に歌を歌うときに、こういうことを言うことがあります。隣のお友達の声をしっかり聞くんだよって。自分の声を目いっぱい出すことだけが大事ではなく、周りの人の声に合わせて、共に歌う。それがとっても大事なのです。

自分の歌声が一番などと思わず、周りの人の笑顔と共に賛美する。周りの音を見捨てることなく、その音を感じながら賛美するときに、それは豊かなハーモニーとなっていくのではないのでしょうか。

このことが今日のパウロの言葉、「尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい」、に通じていますし、「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」に続いて、「歌う人と共に歌いなさい」という言葉も聞こえてきそうです。

そしてその中には、イエス様が一緒にいてくださる。今日の福音書には、このようなイエス様の言葉がありました。「また、はっきり言っておくが、どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心を一つにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる」。さらに続けて、こう言われています。「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである」。イエス様の名によって集まり、イエス様の名によって賛美し、イエス様の名によって祈る。このことがとても大事なのです。

最初にお話ししたように、この説教の後に、洗礼式がおこなわれます。わたしたちの目には、神さまは見えないかもしれませんが。わたしたちは普段、イエス様を感じる事ができないかもしれません。しかし、「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである」とイエス様は約束されました。洗礼を受けたからといって、わたしたちの生活はすべてが順風満帆になるかといえば、そうではありません。この教会の洗礼盤の側面に波が彫られているように、かえって大波がやってくることもあります。

でも、大丈夫なのです。わたしたちの祈りの中に、いつもイエス様はいてくださるのです。わたしたちの賛美の中に、イエス様はいてくださる。そのことをいつも覚えて行けたらと思います。

そしてその支えによって、わたしたちが生かされていること。今日の洗礼式を通して、わたしたち心に刻んでいければと思います。

今日、きっと天のみ国では、わたしたちの歌声にも負けないほどの喜びの歌声が響いていることでしょう。その喜びを分かち合いながら、また共に歩いていくことができればと思います。